

特定非営利活動法人
にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎
令和5年度 通常総会

令和5年5月27日（土） 13:30～

於：新潟市中央区沼垂東2-9-4 東陽スカイマンション1F

『沼垂よりどころ やさい村・よろずや』

■内容

●令和5年度通常総会

○代表理事あいさつ

○議長、議事録署名人の選出

○第1号議案 令和4年事業報告および決算報告

- ・ 会員報告、予定 3 ページ
- ・ 全体概況（成果と課題） 4 ページ
- ・ 補助金事業（地域活動支援センター） 5 ページ
- 授産事業（沼垂よりどころ） 6、7 ページ
- ・ 相談訪問、人材養成事業 8 ページ
- ・ **人材養成事業、自立支援事業 令和4年実施なし**
- ・ 活動計算書 9、10 ページ
- ・ 貸借対照表 11 ページ
- ・ 財産目録 12 ページ
- ・ 計算書類の注記 13 ページ
- ・ 会計監査報告 14 ページ

○第2号議案 令和5年度事業計画および収支予算

- ・ 全体方針 15 ページ
- ・ 補助金事業（地域活動支援センター） 16 ページ
- 授産事業（沼垂よりどころ） 17、18 ページ
- ・ 相談訪問、人材養成事業 19、20 ページ
- ・ **人材養成事業、自立支援事業 令和5年実施予定なし**
- ・ 収支予算書 21、22 ページ
- ・ 役員人事案 23 ページ

NPO 法人「にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎」

令和 4 年度 事業の成果と課題

〈令和 4 年度の具体的方針より〉

① 地域活動支援センターⅢ型(沼垂よりどころ)の運営

利用者の人数が安定しているのできめ細かな支援を行う。本人の特性・住んでいる地域などによって行える作業や活動が決まってくることもあるが、可能な限り多様な経験を積んでもらう。他の施設の見学については、引き続きコロナ感染症の状況を見ながらになる。地域の居場所機能については、ランチ会の需要が出てきそうなので、よりどころの態勢をみながら再開を考えたい。

→見学者が少なく、新たに利用に結び付いた方はいなかった。安定して通えている利用者とは波がある方がいて、ご家族の方への対応も含めて課題である。ランチ会は多い時には 20 名前後集まるようになった。

② 人材の養成・強化

相談員が減っているので、人材養成講座を行える場合は講座を通じて相談員の確保に努め、同時に施設内支援員のスキルアップをはかる。ボランティアについても参加条件等について明確化し、確保を目指す。

→人材養成講座を行うのは困難であった。施設内支援員や相談員は SST やその他の研修に参加し、スキルアップをはかっている。新しいボランティアの方も確保できなかったが、令和 4 年度以前からのワークショップについては続いている。

③ コロナ感染症下での運営

コロナ感染症の性質が移り変わっていくことが分かったので、最新の情報を基に運営する。感染状況により会議などで ZOOM を活用する。新潟県の認証飲食店のチェックリストを活用する。利用者の朝の検温が習慣づいてきたので続ける。来所者の方にも手の消毒と検温を徹底して頂く。

→8 月～2 月まで、利用者・職員・地域の方にコロナ感染症の感染者が断続的に出たが、幸い施設内感染は起きなかった。ZOOM の活用や、消毒・検温などの基本的感染対策については実行できた。

④ 伴走舎の今後について

令和 3 年度に始めた方針検討会議を続ける。設立当初からの基本方針を改めて確認した上で、令和 3 年度に洗い出した問題点のうちどれから取り組むかを検討する。

→意識を共有する場を設けるのが難しかった。令和 5 年度も引き続き課題である。

令和4年度 補助金事業（地域活動支援センター事業）報告

令和4年度は、8月以降、利用者、職員に順々に感染者がでてしまい、不安を抱えながらの運営であった。まして共同して活動していただいている地域住民の方々にも数名感染者が出たことでさらに活動が自粛することもあった。コロナの減少傾向の時は、ランチ会も大勢参加していただき利用者との交流が充実していた時もあったが、中止せざるを得ないこともしばしばあった。

【利用状況】

- 令和4年地活登録者 15名
→ 令和5年地活登録者 15名
- 令和4年度 12,791,849円
- 令和5年度 12,246,551円

事業内容

<特別事業>

○心身機能低下防止事業

- ・レクリエーション等の実施。ボウリング及びその他スポーツ等で楽しんだ。

・実施日 2022年11月3日 ・場所 ラウンドワン ・参加者 通所者7人 職員 2人

○地域交流促進事業

- ・地域の方との交流をはかるイベントを1回実施した。十分なコロナ対策をした上で実施。フリマ、ガラポン、コンサートなど

・実施日 2022年11月19日

・場所 沼垂よりどころ、および近隣施設 ・参加者 通所者 10人 一般 32人

○技術訓練機能強化事業

- ・陶芸体験を実施した。

・実施日 2023年3月27日

・場所 沼垂よりどころ ・参加者 通所者 9人 職員 3名

<サポート相談事業>

通所を促す相談。施設時間外において、相談を受けるのが対象であり、加算されていく。本年は特に実施していない。

<地域相談支援事業>

当施設の案内や、他施設の紹介、および家族についての相談。新規の方へ見学、初回相談を行った。

見学は1名。実際に通うことになったのは0名。感染の為、断ることもあった

令和 4 年度 沼垂よりどころ事業報告

令和 4 年度はコロナ感染症の影響で行事の中止がまだ続いた。職員や利用者が感染したことでの影響が出た時期もあった。

1. やさい村事業

- ・春～秋の週に 2 回ほど、農家さんがトラックで野菜や加工品を卸してくださっている。また、11 月から業者さんが冷凍の揚げ物を卸してくださるようになった。

I. 売上高・仕入れ高の推移

	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
売上高	401,987	405,344	426,016	355,225	412,628	429,451	443,584
(前年売上高)	(448,551)	(425,509)	(417,114)	(377,029)	(348,142)	(334,980)	(387,648)
(前年比)	(-46,564)	(-20,165)	(8,902)	(-21,804)	(64,486)	(94,471)	(55,936)
仕入高	330,275	344,717	355,533	289,939	259,207	326,750	339,582
粗利益	71,326	60,627	70,483	65,286	153,421	102,701	104,002

	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	合計	月平均
売上高	478,183	410,446	334,411	354,191	453,121	4,904,587	408,716
(前年売上高)	(412,882)	(362,569)	(293,405)	(294,660)	(375,404)	(4,477,893)	373,158
(前年比)	(65,301)	(47,877)	(41,006)	(59,531)	(77,717)	(426,694)	35,558
仕入高	392,410	325,471	298,892	275,268	370,964	3,909,008	325,751
粗利益	85,773	84,975	35,519	78,923	82,157	995,579	82,965

- ・われせんの常連様がさらに増えてきた。(車で買いに来て下さる方が何人か出てきた。)

II. 来客人数・客単価の推移

	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	合計	月平均
客数	463	489	489	417	449	440	442	541	466	385	435	505	5,521	460
(前年)	(495)	(424)	(449)	(419)	(424)	(456)	(467)	(484)	(505)	(401)	(422)	(509)	5,455	455
客単価	868	829	871	852	919	976	1004	884	881	869	814	897		889
(前年)	(906)	(1004)	(929)	(900)	(821)	(735)	(830)	(853)	(718)	(732)	(698)	(738)		822

- ・客数・客単価ともに令和 3 年度より増えた。店頭の POP の効果で、沼垂テラス商店街経由らしい方の来店がかなり増えた。

Ⅲ. 行商、宅配、その他

<宅配>

- ・夕食用弁当と牛乳の宅配：一昨年にちらしを配った成果や、紹介などで1件から6件になった。
- ・買い物代行が定期的にあったが、依頼が複雑なこともあり、大変な負担を強いられるので今後の課題。

<イベント>

- ・地域のイベントは、沼垂テラス朝市がほとんどでその他はなかったが、8月にしんこ屋と共同で縁日とお化け屋敷を行った。その際、明鏡高校の生徒30名と一緒にお化け屋敷を制作。周年祭ではやさい村でミニセール・しんこ屋でコンサート・旧靴のモンペでフリーマーケットを行い来客数は80名以上。
- ・8月以降コロナ感染症の影響が大きく、カレー会は中止になる事が多かった。

2、よろずや事業

- ・コロナの影響を受け、依頼が受けられない時期もあり、さほど増減はないが、包括支援センター宮浦東からの紹介や、定期的な依頼は増えつつある。

I. 売上高の推移

	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	合計
今年売上高	24,200	18,220	30,100	19,100	15,000	27,750	18,500	25,370	17,000	42,200	18,300	13,100	268,840
前年売上高	17,600	20,000	10,300	19,000	38,800	35,860	13,000	35,500	5,000	18,000	10,000	7,000	230,060
(前年比)	(6,600)	(-1,800)	(19,800)	(100)	(-23,800)	(-8,110)	(5,500)	(-10,130)	(12,000)	(24,200)	(8,300)	(6,100)	38,780

3、その他

令和4年度は、学校等の受け入れが多かった。特に明鏡高校は、もともとつながりのある学校教育コーディネーターと先生方により、夏休みのボランティア1名、お化け屋敷に30名ほど。その他、沼垂小学校、東新潟中学校特別支援学級、オール(あったか行商)、敬和学園大学、NPO法人プエルタ・ハル(引きこもり支援)新潟市引きこもり支援センターなどを受け入れて、当施設の利用者と共同で作業することが出来た。その他地域住民と共同で草刈りや掃除なども行った。

令和4年度 相談訪問・人材育成 事業報告

1. 全体総括

令和4年度も引き続き相談事業を、原則として第1～第4水曜日午後に設定し、新規・登録会員の面談を実施する計画であったが、新型コロナウイルスによる世界的なパンデミック状態の影響により、国内・県内でも感染回避のため開催することはできなかった。

そのような状態の中であったが、居場所登録の若者全員に対して毎月「新潟市若者ナビゲーションブック」を活用して、グループおよび個々に「若者自身の自己理解を深めるため」のサポートを担当から、具体的ツールを用いて実施してもらうことができた。また、定例のSSTの導入・リラクゼーションの実施、ミニコミュニケーションワーク等も事務局/支援員並びに相談担当が何とか実施することができた。その結果、グループワーク時には日常行動の気になる点等もテーマに盛り込み、事務局を交えてみんなでディスカッションするなど、より前向きで具体的な発言や行動が明確にみられるようになってきた。

毎月の事例報告・検討では、事務局/支援員並びに相談担当の全員が揃うことが難しい状況になってきていることを踏まえ、緊急度に応じて、時間の取れる限り、面談状況や関係情報を確認し、情報・支援体制の共有を図るよう努力してきたものの、コロナ禍や様々な事情により継続して相談対応ができる人材が不足しており、具体的な人材の育成・確保が喫緊の課題である。

2. 令和4年度相談 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
地活利用者	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	9
地活利用者以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数	0	1	1	0	1	0	1	2	1	1	1	1	10

3. 令和4年度 相談 決算報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
収入(相談)													0
(講演)													0
(パーソナル委託)	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	300,000
合計	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	25000	300,000
支出(謝礼)											5000		5000
(相談員交通費4人分)												38000	38000
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	38000	43000

4. 令和4年度 人材育成事業 決算報告

本年も引き続き、新型コロナウイルス感染対策の観点から、実施を見送った。

NPO 法人「にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎」

令和 5 年度 事業運営の方針

コロナ感染症対策の制限がほぼなくなり、流行以前の社会形態が戻ってくる見込み。イベントの多くが再開し、利用者の地域交流の機会となる。今後再び流行が起きる可能性もあるので、基本的な感染防止対策は続ける。

〈具体的方針〉

① 地域活動支援センターⅢ型(沼垂よりどころ)の運営

利用者の中で、利用時間を長くしたり今後のことについて考えたりする動きが出てきた。中断していた SST(社会生活技能訓練)を再開し、ナビブックの活用と共に、各自の現状の良い点・向上したい点を把握して今後にかかす機会とする。令和 4 年度から時々行っている他団体との連携を続ける。

② 人材の養成・強化

相談員の確保を目指し、同時に施設内支援員のスキルアップをはかる。全員で集まれる機会が少ないため、情報共有を確実に行うようにする。

③ コロナ感染症後の運営

基本的な感染対策(毎朝の検温・手指の消毒・マスクの奨励・来所者への検温)は当面の間続ける。コロナ感染症流行時には難しかった活動を再開、又は新しい事を行う一年としたい。

④ 伴走舎の今後について

検討を続ける。令和 6 年度には伴走舎ができて 15 年になるのを見据え、就業規則等も含め、態勢を改めて整備する。

令和5年度 補助金事業（地域活動支援センター）計画

本年度はコロナの影響がようやくなくなり、地域の人との交流や活発な活動が多くなると思われる。利用者にも充実した居場所になるよう努めたい。昨年と利用者の顔ぶれはほぼ同じだが、できるだけ通所してもらおうよう、相談担当と連携していきたい。

事業内容

利用者数令和4年 15名 → 令和5年 15名

特に人数、顔ぶれ変わらず

<特別事業>

○心身機能低下防止事業

・レクリエーション等の実施。ボウリング及びその他スポーツ等で楽しむ。

・予定日 2023年10月ごろ

・場所 新潟市中央区 ・参加者見込み 通所者 15人 職員 3人

○地域交流促進事業

・地域の方との交流をはかるイベントを1回実施する。

地域住民およびその他団体と共同で行う。

・予定日 2023年8月ごろ ・場所 沼垂よりどころ、および近隣施設

・参加者見込み 通所者 15人 一般 30人

○地域交流促進事業

・地域の方との交流をはかるイベントを1回実施する。

周年祭

・予定日 2023年11月ごろ ・場所 沼垂よりどころ、および近隣施設

・参加者見込み 通所者 15人 一般 30人

<サポート相談事業>

○通所を促す相談および地域相談支援事業

地域住民への福祉サービス等の説明および情報の提供等や施設等の案内

就労支援等の情報提供、家庭内での当事者の行動等に対するの家族の対応等の説明を行う。

令和5年度 授産事業(沼垂よりどころ)事業計画

1. 事業内容

地域活動支援センター事業

- ① やさい村運営 野菜、冷蔵・冷凍品・その他食品、日用品販売および宅配・行商
冷凍弁当等の自動販売機
- ② よろずや運営 地域の居場所運営、御用聞き、見守り活動、植栽管理
- ③ 社会生活技能訓練 毎月1回月曜日にグループワークを実施

2. 事業の背景

令和4年度はイベントの一部のみの参加だったが、令和5年度は各種イベントが復活する予定で、利用者の収入源や、地域の方との交流による成長など期待できる面が多い。新たに自販機を導入したのでそれも生かしていきたい。よろずやはその時々の利用者の人数や特性に応じた活動を考えていきたい。

3. 各事業計画

① やさい村運営

- ・菓子類など品揃えを増やし、配置を見直して売上増を目指す。
- ・店内の装飾:絵手紙展、イーゼルやボードを定期的に描く、ポップを作る
→ 利用者もアイデア出し・実行
- ・宅配の充実:需要にできる限り応える
- ・行商:タブレット端末を活用する
- ・観光客に向けてわれせん、冷凍弁当アピール
- ・しんこ屋とやさい村間のお客さんの流れを作る。

② よろずや運営

主なものは例年通り。

- ・定期的な地域ボランティア活動、見守り活動、緑地公園清掃
- ・行商・宅配・ご用聞き:新潟市若者支援センター「オール」との共同事業の行商。
- ・明鏡高校とのお化け屋敷。・NPO 法人プエルタ・ハルとの共同。(草刈り・イベント)
- ・地域の居場所運営:カレー会を月1回開催。週1回のランチ会は需要により再開
- ・ミニ文化教室:絵手紙展の開催。歌声喫茶と健康麻雀に地域の方にも参加して頂けるよう練習
- ・自分の体を知るワークショップ
- ・会報誌の執筆・編集・発行:利用者にしてできることをやってもらう
- ・授産品の開発と販売 ・ネットでのフリーマーケット販売 定期的に元モンペーでも開催。

4. 令和5年度予算案

授産事業予算

やさい村・よろずや(令和5年4月～令和6年3月)

収入		支出	
会費収入	20,000		
やさい村店舗売上	5,040,000	仕入れ	3,931,200
委託費	960,000	パート代	1,320,000
小計	6,020,000		5,251,200
よろずや	420,000	消耗品	50,000
		支払い報酬	15,000
		利用者工賃	700,000
小計	420,000		765,000
合計	6,420,000	合計	6,016,200

差 403,800 円

令和5年度 相談訪問・人材育成事業計画

令和2年以降、世界的な新型コロナウイルス蔓延によって、感染症のパンデミック(世界的大流行)の様相を呈してきて、長期化が予測されていたものの、5月連休明けから政府により、感染防止手段等含め、組織や個人の裁量に任されることになり、捉え方の差異から、釈然としない雰囲気も生まれているようだ。

そのような中、伴走舎では昨年度に引き続き、利用者の感染予防の徹底に努めてもらっている。今年度も更にこれら状況を踏まえて、内的な事業運営の充実を図っていくこととする。

- ① 相談員の補充と能力の向上・維持: 引き続き、専門家のスーパービジョンに加えて、インテーク面接も対象とした担当者スーパービジョンを継続実施する。
- ② 相談会: 相談担当が個々の登録利用者の状況を把握するため、毎月支援員から登録利用者の動向を説明してもらいフォローしていくことを基本とし、併せて各利用保護者のフォローも改めて実施し、一層の情報共有を図る。
- ③ 利用者の日常サポート: 「月間、毎日の行動予定表」を基に、居場所参加担当者は個々に声掛け及び事務局/支援員に動向を確認し、タイムリーに利用者から話を聴いて自立支援に向けた利用促進を進める。
- ④ 相談員の居場所参加について: 自粛期間中は事務局/支援員から「利用者の動向」を知らせてもらい、気になるような利用者については情報共有の点から、個人情報保護の上で、メール等による事務局/支援員と各利用者担当で検討する。
- ⑤ 『新潟市若者ナビゲーションブック』活用: 引き続き有効活用できるように、毎月、主担当を中心にして利用者自身で次のステップに進めるよう、より具体的に利用者の成長をサポートしていく。
- ⑥ パーソナルサポートセンター等外部機関への会議参加: 毎月の会議には積極的に参加し、可能な情報提供を行い、伴走舎での受け入れも含めて協力していく。

2.方向性

- 定例相談会(予約前提の新規・継続相談)は原則として、水曜日午後実施する。
新規相談: 事務局/支援員からインテーク面接を含めた事前報告(可能な限り)を受け、相談担当と具体的な相談日を決める。
- 定例相談が入っていない相談担当者は、自身が担当する利用者との状況を鑑みて、水曜日午後の相談への参加を決めたら、事務局/支援員に報告する。担当者及び事務局は、各利用者の普段の様子を把握できるよう努め、気がかりな言動がみられる場合は個別に声掛けをして、速やかに相談に繋げる。
- 毎月インテーク面接も含む相談担当者による事例検討会(ケースカンファレンス)をする。全員が揃わない場合であっても、可能な限り情報交換をする。
- 専門家及び相談担当者による年2回以上のスーパービジョン(向上訓練)を実施する。
- 相談担当は、オンライン研修も含む外部研修への参加も積極的に利用し、参加後は可及的速やかに、関係者への報告及び情報交換を実施する。
- **人材育成事業**
新規事業の実施: 今年度は相談担当の補充・育成が急がれるため、関連する研修会開催を模索し、要員拡大をはかる。

3.事業計画

- ① 居場所登録利用者相談 第1～4 水曜日 双方の相談により13:30～16:30の間に実施する。

- ② 当事者・保護者居場所見学相談 第1～4 水曜日 13:30～15:30の間に実施するが、事務局/支援員以外に相談員も可能な限り同席する。
 (原則として事前申込) *但し、原則として①、②とも祝日は除く

- ③ SST継続研修参加と実施 SSTリーダー養成研修(初級)を下越地区地域交流会等で実施の研修に参加し、終了証をもらった場合は、伴走舎で振り返り学習のため、若者と共に実施する。

- ④ 相談担当者間事例検討会 毎月 第3もしくは第4水曜日16時以降～17時を目途に実施する。
 必要により相談会後でも、重点的に事例検討をする。

- ⑤ 相談担当者スーパービジョン 相談担当者のスキル向上のため、スーパービジョン(向上訓練)を外部専門家及び相談担当で実施する。

- ⑥ ナビゲーションブック活用の定着 他相談機関でも当事者が活用できる共通ツールとして浸透を計る必要性が望まれ、新潟市教育委員会とタイアップしての、利用説明会・ワークショップ等の実施を提案検討する。

- ⑦ 外部公的機関主催の研修参加及び「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わるNPO職員研修」やPS会議への出席、「SSTリーダー養成研修」等へ積極的に参加をし、伴走舎全体の運営充実を図る。 県内の有用関連研修にも参加し自己研鑽に努める。また、新潟市のPS会議には1名以上必ず参加する。

4. 令和5年度(2023年度)予算 *収入はPSの委託費より計上

	事業名	人数・回数 予定	2023年度予算		
			収入	支出	計
①	地活・居場所登録若者・保護者の見守り及び相談	5件/月	0	100,000	-100,000
②	新規・継続 当事者/保護者居場所見学相談(原則として予約)	1組×10回			
③	SST養成講座(リーダー・コリーダー)	1人	0	11,500	-11,500
④	相談担当者向け事例検討会(①に含む)	12回	0	0	0
⑤	相談担当者スーパービジョン	3回	0	15,000	-15,000
⑥	PS委託	1/月×1人	300,000	0	300,000
	合計		300,000	126,500	173,500

2023 (令和5年) 堀内作成

令和5年度 「役員人事」

●再任	代表理事	長嶋 信司
	副代表理事	堀内 一恵
	副代表理事	天城 忠司
	副代表理事	鈴木 貴之
	理事	青木 洋之
	理事	江口 歩
	理事	斎藤 まさ子
	理事	井口 彩
	理事	高橋 優子
	監事	池田 泰秋
	監事	富澤 佳恵

●任期 令和6年度の事業年度終了後、最初の通常総会まで。

以上